

呼吸器疾患における新規血清マーカーとしての IFN- λ の臨床的有用性の検討に関する研究

2014年8月1日から2021年11月30日までに多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患のために治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「呼吸器疾患における新規血清マーカーとしての IFN- λ の臨床的有用性の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、他の研究機関との共同研究として、2014年8月1日より2021年11月30日までに日本医科大学付属病院リウマチ・膠原病内科にて、多発性筋炎／皮膚筋炎関連間質性肺疾患のために治療を受けられた患者さんの血液中の IFN- λ の値を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。本調査で用いた情報は、共同研究機関へ提供させていただきます。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：呼吸器疾患における新規血清マーカーとしての IFN- λ の臨床的有用性の検討

研究期間：研究実施許可日～2028年4月30日

当院における研究責任者：日本医科大学付属病院 リウマチ・膠原病内科 桑名 正隆

(2) 研究の意義、目的について

IFN- λ は、炎症や感染症などの免疫応答に関わるタンパク質です。特に抗ウイルス効果を示し、体の中で外からの刺激を受ける臓器である皮膚、肺、消化管に存在することがわかっています。近年、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患の患者さんからの採取した細胞での IFN- λ の産生が、呼吸器ウイルス感染により低下することが報告されました。しかしながら、どのような肺の病気で、また、どのような治療で、どのように血液中の IFN- λ 値が変化するのかよくわかりません。そのため、血液中の IFN- λ の値を様々な呼吸器疾患の患者さんの診療用血液検査の残余検体を用いて測定させていただき、IFN- λ がどのような肺の病気で、どのような治療で変化するかを評価することを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類および外部機関への提供について）

2014年8月1日より2021年11月30日までに日本医科大学付属病院リウマチ・膠原病内科にて診療を受けられた多発性筋炎・皮膚筋炎関連間質性肺疾患の患者さんについて、以下の試料・情報を収集、使用いたします。

試料：血液

情報：性別、年齢、喫煙歴、生活歴、血液検査結果、肺機能検査結果、治療経過、予後等

これらの試料・情報は、共同研究機関である浜松医科大学へ提供されます。これらの試料・情報は、セキュリティ管理された電子ファイルにデータ入力を行い、研究グループが管理するサーバーへ電子的に収集されます。各研究機関から収集された試料・情報を用いて、研究グループが血液中の IFN- λ の値がどのような肺の病気で、どのような治療で変化するかについての検討を行います。

(4) 共同研究機関（試料・情報を利用する者の範囲および試料・情報の管理について責任を有する者）

研究代表機関：浜松医科大学 内科学第二講座

研究全体の責任者：浜松医科大学 内科学第二講座 教授 須田 隆文

その他の共同研究機関：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(7) 当院における問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 リウマチ・膠原病内科 准教授 五野 貴久

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：27591

メールアドレス：rheum@nms.ac.jp